

大学生のバイトテロに対する意識について
信田修吾 (22011255sn@tama.ac.jp)

1. 研究の背景と目的

現代ではインターネットの発展と共に SNS が多くの人に普及している。総務省調べによると、スマートフォンの普及率が 86.8% と八割を超える状況にあり、SNS の使用率は 48.8% とおよそ半分となっている。多くの人が SNS を利用している以上、SNS が持つ情報拡散力は高く、SNS と密接な関係にあるバイトテロに対する意識は、強めるべきであると考えられる。

バイトテロが起こす被害は、とても大きく、大手企業のチェーン店での被害額が 1000 万を超えることもある。それとは反比例し、最近では昔ほどメディアで取り上げなくなり、今の大学生のバイトテロに対する意識が薄くなっていると考えた。

そのため、本研究では、現在の大学生のバイトテロに対する意識を調査することで、バイトテロが起こす危険性の高さを理解しているかを求めることを目的とする。

2. 先行研究の分析

山下は、SNS において本名公開による個人特定のリスクが上がることを指摘している。

山口は、インターネット上の炎上や SNS 上の誹謗中傷に対する関心について、SNS の暴言などに対して良い印章を持っていないこと、しかし炎上はごく少数の人が起こしており、ほとんどの人が他人事として捉えていると考察している。

これらの先行研究から炎上について以下のような現状が分かる。

- ① SNS のアカウントの特定されやすい状況にあり、SNS が炎上した時には個人情報特定される危険性が高いということ
- ② SNS の炎上は他人事であることが多く、実際にそういった投稿した人はほとんどいないということ

SNS の炎上に関する現状は分かったが、残っている課題として三つ存在する。

- ① SNS に炎上するような投稿してしまうということの意識
- ② 他人事である炎上が誰にでも起こってしまう可能性が残っている
- ③ 炎上した後どれほどの危険が残っているのかの危機感

炎上が自分は起こらないと考えているからこそ起こってしまう、炎上に対する危機感の欠如があると考えられる。バイトテロは SNS の炎上が内包しているため、これらの課題はバイトテロと関係があることがわかる。

3. 研究方法と調査対象

アンケートの方法としては Google フォームを利用し、URL と QR コードからアンケートに回答してもらった。

調査対象は多摩大学生を対象に 1 年生 34 名、2 年生 13 名、3 年生 2 名、4 年生 6 名の合計 55 名である。調査期間は令和 5 年 10 月 13 日から 10 月 31 日に行った。

4. 調査内容

アンケートは、バイトテロが起こる理由、バイトテロが許せる行為であるかといった、バイトテロに対する客観的視点から聞いた質問、バイトテロまがいのことをしたことがあるかなどの、バイトテロに近い視点からの質問、バイトテロに限らない SNS 上の迷惑行為に関する質問で構成されている。

5. 結論

アンケート結果の分析から以下の事が明らかになった。

- 1) バイトテロの理由を他者や SNS の危険性に帰する傾向がある。
- 2) バイトテロを許容する人もおり、犯人だけを責めるのが難しいという傾向がある。

本研究の結果から、バイトテロの要因を外的要因にしている以上、バイトテロが誰にでも起こされるものであると考えられる。

参考文献

総務省 (デジタル利用環境・サービス等の活用状況 2021)

「SNS における炎上リスク分析と対策システムの開発」(山下・中村・川村・鈴木・東京工業高等専門学校・北海道大学)

「ネット炎上の実態と政策的対応の考察」(山口)